

(4) 鳥獣害対策の省力化



こんなお悩みに…

- ・食害が増えてきた
- ・罾の見回り作業が大変
- ・農作業中の大型獣との遭遇が心配

…など

1.どんな方法があるの？

取り入れる機械の例

①カメラ

～農地や罾周辺の状況を確認～



農作業前に確認することで遭遇を回避！

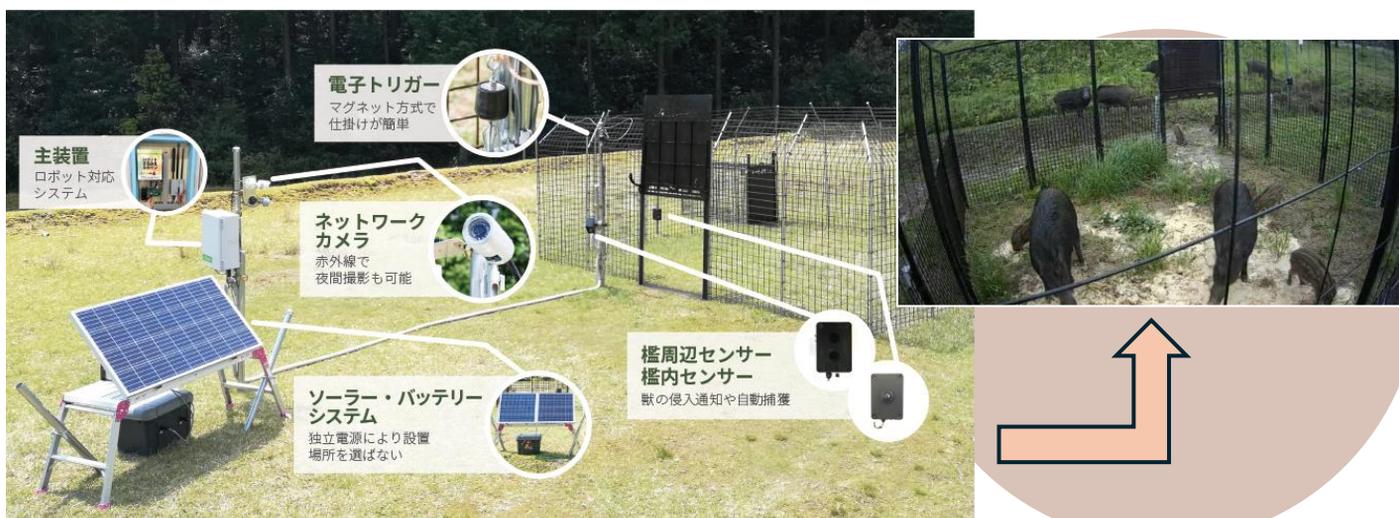


②捕獲通知器

～罾が作動したらスマホに通知～



③自動捕獲器～設定頭数が罾に入ったら自動で罾が作動～



- ・スマートフォンで現場を確認しながら罾を作動させることも可能です。
- ・群れごと捕獲することで罾に警戒する個体も減少します。

2. 効果・メリットは？

ラクラク

- ・家にも通知がくるので負担が少ない
- ・害獣に遭遇する危険を防げる

地域で連携可能

- ・複数へ通知が可能のため行政・猟友会等との連携が簡単

戦略を立てやすい

- ・罠の設置場所や捕獲実績もマップで把握可能のため、罠の追加設置箇所を決めやすい

3. 費用は？

機器	導入費用	維持費 (1ヶ月あたり通信費)
カメラ	2～10万円/台	1～2千円/台
捕獲通知器 ～単独通信型～ ～基地局型～	4～7万円/台 30～50万円/1式	1～2千円/台 1～2千円/基地局
自動捕獲器	60～110万円/1式	5千円～1万円/1式

捕獲通知器の種類について

単独通信型：捕獲通知器から直接スマホに通知が届く



基地局型：基地局（親機）と複数の捕獲通知器（子機）の接続が可能。親機からスマホに通知



[機器を導入できる事業]

鳥獣被害防止総合対策交付金、中山間地域等直接支払交付金 等
(詳細は各農林水産事務所へご確認ください)

機器の動画や一覧はこちらから確認できます。



動画は
[こちら](#)



鳥獣害対策に
活用出来る
機器情報は[こちら](#)